



## STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011推進ニュース

### —介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

#### 新方針「介護ウェーブ2011後半戦の方針」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

#### ついに完成！介護職員手づくりの紙芝居&冊子「どうなるの？介護保険！！」 手書きのイラストとなり色鉛筆で丁寧に重ね塗りし、やさしい色使いで仕上がる（福井）

介護保険改定をわかりやすく職場や地域に発信するため、つるが生協ディサービスでつくった坂口さん（介護主任）が、紙芝居と小冊子をついに完成させました。内容は、「要支援のヘルパー切り下げ」、「利用料の2割負担」、「介護職の医療行為のなしくずし実施」、「処遇改善交付金の打ち切り」、「介護療養病床の廃止撤廃」が手書きのイラストとなり色鉛筆で丁寧に重ね塗りし、やさしい色使いで仕上りました。坂口さん本人、職員、利用者も登場しています。12月17日に、みどり支部の配達者交流会、あわの支部の班会でこの紙芝居をデビューさせてもらい、「よくわかる」と大好評でした。現在、A4サイズの冊子も完成しており各職場での活用を検討中です。坂口さんは、図工が好きであわの支部の配達者交流会では、来年の干支「辰」を和紙やモールを使い、いろいろな顔の辰が完成し、笑顔いっぱいの場となりました。



#### ラストスパート笑顔でがんばります！つるがから元気な介護ウェーブ発信



介護の日と医療生協強化月間にあわせ、10月から12月の3ヶ月連続で介護職員を中心に街頭署名行動に取り組みました。敦賀市は福井県の南に位置し、県連から60キロ離れた原発で有名な街です。敦賀の街中で署名などの光景はほとんど見ることはありません。3年前から介護ウェーブの一環として街頭署名をはじめました。社保委員の森田さんが先頭に立ち、全員が1回は参加しようを合言葉に合計34名の職員が参加しました。介護署名は、誰にでも訴えやすく市民の反応もよかったです。12月はみぞれが降る中も強い意志で月間をやりきりました。3回の取組みの中で介護署名が273筆、社会保障の署名も158筆集めることができました。在宅総合センター和の介護署名目標1,500筆のうち現在1,056筆の署名が集まっています。ラストスパート笑顔でがんばります。

（2011年12月20日 福井医療生協つるが生協在宅総合センター和より）

## 家で介護ができないつらさと、落ち着いた入所施設が決まらず不安の毎日 地域で介護する家族懇談会(特養待機者懇談会)で地域の方と学習・懇談(長野)

第1回目の「地域で介護する家族懇談会(特養待機者懇談会)」に引き続き、あづみの里の介護ウェーブ推進委員のメンバーの顔ぶれも新たに11月12日(土)に第2回目を開催しました。

今回は、第1回目の参加者から「介護技術を教えて欲しい」との声があり、開催案内(44通発送、22通返信、10名他界、9名都合合わせ、3名参加)で「困っている事」を集約し、「車椅子からずり落ちた時の持ち上げ方」、「介護食の作り方、介助方法」が要望として寄せられ、委員の中で資料準備と、



当日の説明も含め分担して準備を進めました。自らが、一つひとつの動きを写真に収め解説をつけた資料等を準備し、アイデアを活かし分かりやすいものとなりました。また、介護者自身の身体も大切にしていただこうと、リフレッシュ体操の資料も配布しました。

当日は1名の参加であったため内容を変更し、「改定」介護保険法の説明、リフレッシュ体操、懇談を行いました。職員も皆で体操をし和んだ後、実際のお話を聞きしました。

参加者から、「現在、実の両親と旦那の母の3人が要介護状態。両親は夫婦で同じ施設に入所しているが、家から離れているため行き来に時間を要する。面会に行っても、現実と離れた事を発したりしどう対応すればいいのか困り、実の親と言うこともあり面会のたび喧嘩になってしまうことが多い。旦那の母親も隣の市の老健に入所しているが、職員の方から、次の施設を探しておいてくださいと言われているがあてがない。以前は、あづみの里のデイを利用していた頃がなつかしいし、本人は、訪問に来ていただいている職員の名前を今でも口にしている。自分自身の心境として、できれば家で介護をしていきたいが、仕事もしないと生活が苦しくなっていってしまう。家で介護ができないつらさと、落ち着いた入所施設が決まらず不安の毎日である」と、涙を浮かべながらお話ししてくださいました。最後は、「また、集まりましょう」と閉会しました。

介護ウェーブのメンバーからは、「もっと自分達の力を地域の方々に伝えたい」、「こうゆう企画を行う事で、本当の地域の実際が感じられる」、「続いて企画しよう」と意見が出され、「今度は午後だね」となりました。

会が終了後、13時に一人の方が来られ、「13時からだと思っていた」と。この方は、なんと、開催案内に「車椅子からのずり落ちた場合の上げ方を教えて」と書いてくださった方でした。せっかく足を運んでくださったので、2時間ほど話を聞いたり、介助方法の実践を行いました。また、懇談会の開催費用は、介護ウェーブ推進委員会による「昼食販売」で財政活動を行いました。次回は、多くの皆さんに来ていただけるよう、さらに頑張ります！

(2011年12月22日 社会福祉法人協立福祉会より)



お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp